

全校生のみなさん、おはようございます。早いもので今年も残りわずかとなり、教会のカレンダーでは昨日から待降節の季節に入りました。待降節は、クリスマスの準備期間であると同時に、新しい年の始まりです。

後期中間試験も無事に終わり、目に見えるクリスマスの準備が着々と進んでいます。中央委員と有志の皆さんが飾ってくれたイルミネーションやツリー、ポインセチアの飾りで校舎の中は華やいています。また2年生の級長・副級長さんが協力してつくってくれた美しい大リースや、各クラスの行事委員のみなさんが作製したクリスマスリース。そして聖母会の皆さんが設置してくれた馬小屋も登場しました。なんとなくワクワクしてきますね。

さて、待降節は『イエスがこの世に来てくださるのを待つ』という特別な時間です。そして、皆さんもご存じの通り、クリスマスは、イエス・キリストの誕生をお祝いする大切な日です。それは、この世界の「救いの始まり」を示す重要な出来事でもあります。2024年前のあの夜、一度きりの出来事ではなく、毎年、訪れる「救いの始まり」です。では、その「救い」は、今、この世界に生きている私たちに、どのように関わるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

みなさんは、今の自分に満足していますか？ 日々の生活の中で、平和や喜び、希望に満ちていると感じていますか？

ルカによる福音書に次のような言葉が記されています。

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

世界で最初のクリスマスの日、野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いたちに救い主の誕生を告げた天使の言葉であり、約2,000年もの間、時代や国を超えて共有されているクリスマスのメッセージです。

イエスの誕生は、社会の片隅にいた羊飼いたちに最初に告げられました。彼らは、星に導かれてイエスが生まれた馬小屋に駆けつけました。そして、自分たちが見聞きしたことがすべて、天使が話したとおりだったので、神様に感謝と賛美をささげながら帰っていった、と福音書の中に記されています。彼らは、喜びと希望を胸に、日常生活へと戻っていったのです。彼らの日常生活はいったい何が変わったのでしょうか？ 社会の片隅でひっそりと暮らしていた羊飼いたちは、「すべての人々のために、救い主がお生まれになった」という天使からのメッセージを、人々に告げ知

らせる者へと変えられました。弱く、貧しい存在である自分たちに目を留めてくださった神様の愛に触れ、自分たちの心の闇が、あたたかな光で照らされる体験をしたのです。これが「救いの体験」です。喜びと希望でいっぱいになった羊飼いたちは、その体験を人々に分かち合わずにはいられなくなったのです。

2024年、私たちは、この地球に住む一人の人間として、この同じメッセージに耳を傾けます。今年も、この地球上に大きな災害や戦争が起こりました。希望、励まし、そして癒しを必要としている人々がたくさんいます。

私たち一人ひとりもまた、悩みや葛藤を抱えています。学校生活や家庭、友人関係の中で、思い悩むことがあるでしょう。

しかし、そうした私たちの心の闇に、クリスマスの希望が宿ることを忘れないでください。悲しみ、苦しみ、恐れや憤りを抱き、本当の幸せを見出せずにいるあらゆる人たちのためにこそ、クリスマスは準備されているのです。「救いの始まり」であるクリスマスが今年も、私たちのもとに訪れるのはそのためです。新しく始まる2025年が、私たち一人一人にとって希望に満ちた年になることを神様が望んでくださっているからです。

待降節の期間、私たちには心を整えるための時間があります。

クラスや学年でのクリスマスの準備、小さな奉仕や贈り物づくり、クリスマス献金や待降節の祈りを通して、この世界や周囲の人々の苦しみや悲しみに心を寄せることができます。

イエスが示してくれた「誰かの苦しみや悲しみに寄り添う姿勢」に倣い、私たちも互いを思いやり、支え合い、希望と喜びを分かち合いましょう。

今年のクリスマスが、皆さんと皆さんのご家族にとって、平和と希望と喜びに満ちたものとなりますように心から願っています。